

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

11 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部省略した部分があります。)

農業には、自然を破壊するという一面と、自然を創り出すという一面とがある。

世界の農業に目を向けたとき、農業は間違いなく自然の破壊者として見なされることが多い。

一つは、農地の開発である。

農業を行うためには、農地が必要となる。A、森林を伐採して、農地の拡大が行われている。B、大規模な農地の開発が行われているにもかかわらず、世界の農地面積は増えていない。これは、どうしてなのだろうか。

5

じつは、農業を続けることによって土壌が荒廃し、作物の栽培ができなくなっているのである。たとえば、農地で作物を栽培すれば、作物が土の中の養分を吸収する。そのため、土の中の栄養分は失われて、やせた土地になってしまうのである。もちろん、作物を栽培するためには肥料を施すが、化学肥料で補える栄養素は限られている。こうして、やせて植物が育たなくなった土は、風や雨水で流出してしまう。じつは、現在では、世界の農地の四〇%で、このような土壌浸食が問題になっている。特に、巨大な食糧生産大国であるアメリカでは七五%もの農地で土壌浸食が起こっていると言っから、深刻である。

10

土は無限にあるわけではない。土は有機物が分解することによって作られる。

たった一センチメートルの深さの表土が生成されるのに、およそ二〇〇〜三〇〇年かかると言われている。つまり、作物を栽培する三〇センチメートルの深さの土を作るためには、六〇〇〜九〇〇年という途方もない歳月を要するのである。こうして作られた表土が、今、C失われているのだ。

15

もちろん、やせた土にならないように、人間は肥料を撒く。しかし、その肥料もまた、砂漠化の原因になっている。

作物を栽培するために農地に水を撒くと、土にしみ込んだ水に土の中のミネラルなどの栄養分が溶け出す。日光に温められると土壌表面の水は蒸発し、栄養分を含んだ土の中の水は地表面に上がっていく。そして、水が蒸発してしまうとミネラルなどの栄養分だけが、土壌表面に残ってしまうのである。

こうして、土壌表面に栄養分は蓄積して、濃度を高めていく。作物を育てるのに、栄養分は必要であるが、適量がある。あまり

20

に高濃度になると、逆に植物に害を与えてしまう。こうして、土壤表面に蓄積されたミネラルなどによって、土地は植物が育たない環境になる。そして、ついには砂漠と化していくのである。<sup>3</sup>この現象は、「塩類集積」と呼ばれている。

古代に繁栄を遂げたメソポタミア文明やエジプト文明は、この塩類集積によって滅亡したとされている。農業は環境を破壊し、そしてその環境破壊は、文明を滅ぼすほどの力を持っているのだ。

科学が進歩した現在でも状況は何一つ変わっていない。農地の塩類集積は大きな問題となつていいる。今でも、農業による地力の低下や塩類集積によって、一年間に五〇〇〜六〇〇ヘクタールもの農地が砂漠と化している。驚くことに、これは日本全体の農地面積よりも大きな面積である。今や環境破壊は、一地域の問題ではなく、地球規模の問題である。二一世紀を生きる私たちもまた、文明の危機にさらされているのである。

さらに近年では、<sup>4</sup>水資源の不足も指摘されている。

農業は、植物を栽培するために、大量の水を必要とする。

水の惑星と言われる地球ではあるが、その多くが海水や地下水であり、実際にわれわれが利用できる水資源は、わずか〇・三％にすぎない。その限られた水の、じつに約三分の二が農業用水として利用されている。そして、農業の発達と拡大が、地球規模の水不足を招いているのである。

中国大陸を流れる黄河は全長五五〇〇キロメートルにも及ぶ世界有数の大河である。しかし、農業用水として水を使いすぎたことによつて、下流部では水がなくなる断水が起こつていいると言ふ。また、ロシアのアラル海は、かつて世界で四番目に大きい湖として知られていた。ところが農業用水として水を利用するようになってから、アラル海は C 小さくなり、ほぼ消滅してしまう事態にある。

このように農地の開発や、地力の低下、塩類集積、水資源の不足などによつて、農業は環境を破壊していいるのだ。

ところが日本で暮らしていいると、ここで紹介したような環境破壊は、どうもピンとこない。それは、日本の農業が田んぼを中心に行われているからなのである。

先に述べたように、日本人もまた米開の地を開拓し、田んぼを作つてきた。

しかし、その結果、作られた田んぼに自然破壊のイメージはあまりない。田んぼや田んぼに水を引くための小川は、ドジョウや

メダカ、カエル、トンボ、ホタルなど、さまざまな生き物が暮らしていいる。

田んぼは湿地を開発して作られてきた。そのため、田んぼには湿地の生き物たちがそのまま生息していいるのである。そのため、生態学では田んぼの環境のことを「代替湿地」と呼んでいいる。

農業が水資源を奪うという点はどうだろうか。

水をためる水田は、大量の水を必要とする。しかし、日本は世界の雨の二％が降るといわれるほど、水資源に恵まれた国である。確かに水不足のときには水を奪うという面もあるが、むしろ大量に降る雨を受け止めて、ゆつくりと流す役割をしていいる。

それでは、世界の農地で問題になつていいる土壌の流亡はどうだろうか。日本の国土を覆う田んぼは、畦でまわりを囲み、土が流出するのを防ぐ砂防ダムの役割をしていいる。そのため、土をしっかりと受け止めて流さないののである。

それでは、世界の農地を砂漠化していいる塩類集積はどうだろうか。

土壤表面に塩類が集積するのは、水分の蒸発によつて土の中から水が上がつてくるためである。雨の多い日本の畑地や、水を張つていいる田んぼでは塩類集積は問題にならない。

また、作物を栽培することによつて、土の中の栄養分が奪われるが、これも日本では問題にならない。昔から「稲は地力で、麦は肥料で作る」といわれ、イネは土の中の栄養を利用する作物であつた。もちろん、現在では化学肥料を用いいるが、肥料のなかった昔も、山の森林から流れ出る栄養分を含む水が田んぼを潤して、栄養分が補給されていたのである。

(中略)

これまで紹介してきたように、世界の農業は環境を破壊していく。

農業は水資源を奪い、豊かな土を荒廃させる。農業を行つた土地は 5 し、人々は新たな農地を作るために、豊かな森林を破壊する。

これに対して、日本の水田は、豊かな水資源に恵まれて、豊かな自然の恵みを享受していいる。そして、世界の農業に比べて高い生産力を誇つていいるのである。

それなのに……日本の田んぼを見渡してみるとどうだろうか。

日本の田んぼではイネが作られていいない。耕作放棄地となつてただ荒れ果てて雑草まみれになつていいる田んぼもある。

田んぼを耕し、イネを作る人は年々 ア、荒れ果てた田んぼは年々 イ いる。

もちろん、問題は単純ではない。日本人の米の消費量は  ウ  いるから、米は余り、米の価格は下がっている。外国からは安い米が輸入されてくるし、外国に輸出するにはコストがかかる。その結果、イネを栽培する人は  エ  いるのだ。

問題は単純ではない。それは十分にわかっている。

しかし、世界の人が日本の田んぼを見たらどう思うだろう。

人口は増え続け、農地は圧倒的に足りない。食糧不足で飢えている人々が八億人以上もいると言われている。世界の人口の一〇人に一人だ。水資源も足りない。異常気象による不作も続いている。

それなのに、水資源に恵まれ、高い生産力を誇る日本の農地が使われずに荒れ果てているのだ。かつて手入れの行き届いた日本の美しい里山の風景は、日本を訪れた外国人たちを驚嘆させた。しかし、今飢餓に苦しむ世界の人々がこの風景をみたら、どう思うことだろう。

縄文時代に稲作が日本に伝えられて数千年。現在、日本の田んぼはもつとも荒れ果てた状態にあると言われてさえているのである。

(出典 稲垣栄洋『イネという不思議な植物』ちくまプリマー新書による)

問一  A・Bに入る言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イむしろ ウ そのため エ つまり オ なぜなら カ また

問二  Cに共通して入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 代わる代わる イ 泣く泣く ウ 返す返す エ 恐る恐る オ 見る見る

問三 ―線1「これは、どうしてなのだろうか」とありますが、その理由を「」から。」に続くように、本文中から三十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問も同じ。)

問四 ―線2「途方もない」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しかたがない イ なみはずれた ウ 理由もない エ かけがえのない  
オ わかりきった

問五 ―線3「この現象」とありますが、どのような現象ですか。四十五字以内で説明しなさい。

問六 ―線4「水資源の不足」に関する記述として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 地球にある水分のほとんどは、人間の生活には利用できないものである。  
イ われわれが利用できる水資源のうちの半分以上は農業に使われている。  
ウ 農業で大量の水を利用することが環境破壊を引き起こしてしまっている。  
エ 日本是世界で最も雨量の多い国であり、水不足の心配はまったくない。  
オ 日本の田んぼは大量の雨を受け止めて少しずつ流す役割を果たしている。

問七  5にあてはまる言葉を本文中から三字で抜き出しなさい。

問八  ア～エには「減って」か「増えて」が入ります。「減って」が入るものをすべて記号で答えなさい。

問九 本文の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 荒れ果てた里山にかつての美しさを取り戻し、日本の田んぼがいかにすぐれているかをアピールするべきだ。  
イ 世界では多くの人が食糧不足に苦しんでおり、日本の田んぼが有効に利用されていないのはもったいない。  
ウ 農業による収入だけで生活していくのは難しいので、日本の田んぼが利用されなくなっていくのはしかたがない。  
エ 日本の田んぼが本来もつ生産力を取り戻すことができれば、世界の食糧不足を一気に解決することができる。  
オ 日本の田んぼの長所を海外にも発信し、世界中でイネを栽培することが食糧不足を解決する最も良い方法である。

二 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。

「先生、このプリント、なんですか？」

「ああ、もみじ給食の日に来てもらう人たちの名前なんだ。これは、去年のデータなんだけどな」

「じゃあ、ここは？」

真央が消された名前を指差すと、長野先生は中指で、コツコツコツコツと、机をたたく。

「大森のおばあちゃんだ。毎年、来てもらっていたんだけどな、今年からは一人暮らしじゃなくなっただけだろ」

「え？ 大森って、大森二葉さんのことですか？」

「ああ、そうだけど、知らなかったのか？ 大森はおばあちゃんの家に移<sup>うつ</sup>してきたつてこと」

「そうなんですか」

「だいたい、大森さんは話しかけても、「うん」とか「ううん」しか言わないから、大森さんのことを真央はほとんど知らない。

どうしたら、大森さんは心を開いてくれるんだろう。」

長野先生の顔をぼんやり見ていた真央は、「そうだ！」とひらめいた。

「大森さんのおばあちゃんを、今回も『もみじ給食』に呼ぶっていうのはどうですか？」

長野先生は、「うーん」とうなづいて、目を閉じる。返事に困っている様子だった。それでも真央は引き下がらない。

「そしたら、大森さんも楽しいんじゃないかなあつて、思うんですけど」

「だけど、先生だけで決められることじゃないからな。それに」

「それに？」

「知ってるだらう。『もみじ給食』は、一人暮らしのお年寄りと交流をはかろうという行事なんだ」

真央はがつくり肩<sup>かた</sup>を落とす。それでもあきらめきれなかった。

「でも、先生」

長野先生が真央の目を見してくれるのを待つてから、

「大森さんがこの町の人たちやクラスの子たちと、仲良くなれるチャンスだと思うんですけど」

無理を承知でお願いする。クラスの代表として意見を言うのが、学級委員の仕事なんだ。おばあちゃんといふのなら、大森さんも心強いに決まっている。「ア」

「ね、先生。お願いします」

真央が長野先生に手を合わせると、先生は「おいおい」と頭をかいた。

「少し、他の先生とも話し合ってみないとな」

真央は、「よし！」と、心の中でガッツポーズ。

「そうだ！ できれば、大森さんには内緒<sup>ひそか</sup>にしてくれませんか？」

「どうして？」

「先生も大森さんのびっくりした顔が見たいと思いませんか？」

「だけど、それはなあ」

長野先生は頭の後ろで腕<sup>うで</sup>を組む。そんな長野先生に、真央は人差し指をくちびるにあて、小さな声で言った。

「ついでに、クラスみんなにも、秘密にしてください。サプライズっていうことで」

長野先生は苦笑いをして、

「女子はサプライズが好きだなあ」

と、画手で自分の顔を A ふいた。

「だけど、いろいろ考えてくれてありがとうな」

最後に顔を引きしめる。

「これから頼りにしているぞ」

真央の胸はキエンと高鳴る。「はい！」と言って、長野先生におしきをした。

今日は百点満点だ。今日こそ、美奈子さんのことを、「ママ」って呼べる。

<sup>2</sup> 校門を出てからスキップをした。心の中で言ってみる。

「ねえ、ママ。今日ね、先生に「頼りにしている」って言われたんだよ」

5

10

15

20

25

30

35

40

うまく言えるか自信はない。小さな声で練習する。

「ねえ、ママ」

なんか少しくさだ。「ねえ」のところをもっと大きく。「ママ」のところは、もっと自然に。〔 イ 〕

「ねえ、ママ」

そうそう、いい感じ。

「ねえ、ママ」

クスツと笑ってしまう。

「ねえねえ、ママ」

ランドセルが B 鳴った。

玄関のドアを開けると同時に、美奈子さんの声が聞こえてくる。

「わあ、すごい、すごい。リョウ、上手」

弟に話しかけている。名前は良太。「いい子になりますように」って、パパと美奈子さんが考えた。

「リョウは、お兄さんだねえ」

真央の胸はしぼんでしまう。ハートと大きなため息が出た。弟のことは、ちゃんと可愛い。なのに、こんな気持ちになっちゃうのは、いったいどうしてなんだろう。

弟が、パパと美奈子さんの子どもだから。

そんなこと、真央はだれにも聞けないでいる。

リビングには、弟にカメラを回ける美奈子さんがいた。弟は、最近できるようになった「立ち」をしている。

「ただいま」

「あつ、真央ちゃん。お帰りなさい」

美奈子さんが気まずい顔で振り返り、手に持ったカメラを背中に回す。

かくす必要なんてないのにな。そんなふうにされたほうが、こっちは反応しづらいんだ。「いつしよに写真撮らない？」って

誘ってくれたほうが楽なのに。

真央はランドセルをソファアに置いた。

「手を洗ってくるね」

美奈子さんに引きつった顔を見られないように、洗面所に  目撃。鏡に映る自分に言った。

「ママ」

やっぱり今日も言えそうにない。悲しい顔の自分を見ると、<sup>3</sup> なぜだか泣きたい気持ちになった。

鏡の中では、ピンクのスウェットの胸元で、ブランドキャラクターのビーバーが、「あつかんべー」と舌を出している。今年の春に、美奈子さんが買ってきてくれた服。美奈子さん好みの服を着ているだけで、真央は少しだけ安心する。自分に似合う似合わないは、まったく気になっていない。〔 ウ 〕

美奈子さん。美奈子さん。美奈子さん。

真央は美奈子さんを目で追いかけた。

「真央ちゃん。さあ、おやつにしましょ」

キッチンから出てきた美奈子さんに、

「ねえ、なにか手伝えることない？」

真央はいつものように明るく言った。

「平気、平気。真央ちゃん、そんなに気をつかわないで。それより、たまにはお友だちと遊んできたら？ 真央ちゃんは、今、一番楽しい時期なんだから」

そんなことを言われたくない。美奈子さんに悪気はないとわかっていても、邪魔者扱いされているようで、余計に心が傷ついてしまう。

「そうだ。今度、お友だちをうちに連れてきてよ。おいしいおやつ、用意するから」

それもちがうってわかってほしい。真央は友だちなんかより、美奈子さんと仲良くなりたいんだ。

学級委員に立候補したのも、クラスのお手本になろうとするのも、美奈子さんに「いい子だね」って言われたいだけ。美奈子さんにそう言ってもらえたら、真央は安心できるんだ。ここが自分の居場所だって。

そんな真央の気持ちも知らないで、

「さあ、真央ちゃんも座って」

美奈子さんがテーブルにつく。

今日のおやつは手作りプリンだ。カラメルキャラメルの甘い匂においがする。

チャイルドチェアに座った弟。

アーウー。

アーウー。

もうスプーンを握にぎっている。

アーウー。

アーウー。

まだ言葉はしゃべれない。

アーウー。

アーウー。

でも、美奈子さんには通じるのか、

「ちゃんと、いただきます、してからよ」

クスッと笑ってから付け加える。

「ほんと、リョウは食いしん坊はつきなんだから。少しは真央ちゃんを見習まなって」

そんなセリフまでひつかかる。美奈子さんは、真央のことを「真央ちゃん」と呼ぶ。

胸がキュッと痛くなった。息がだんだん苦しくなる。〔 エ 〕

「今日ね」

職員室での出来事を、美奈子さんに話そうとしたとき。

「ま、ま」

弟が言った。

「ま、ま」

真央の時間が止まってしまう。

「今、言ったよね。今、リョウ、『ママ』って言ったよね？」

美奈子さんに聞かれたけれど、真央はなにも答えなかった。その代わりに、<sup>4</sup>初めて美奈子さんにウソをついた。

「わたし、友だちと約束してるの忘れてた。プリン、帰ってきてから食べるから、残しておいて」

玄関を出る直前に、美奈子さんの声が聞こえてくる。

「リョウ。もう一回。もう一回、ママって言ってみて」

真央は手のひらをギュッと握る。胸のあたりがヒリヒリする。くちびるをかんで、かけ出した。

「弟に先を越されちゃった」

夕日がまぶしくて目を細めると、がまんしていた涙なみだがこぼれてしまった。

(出典 白矢三恵『トクベツな巨』PHP研究所による)

問一 線 a 「肩を落とす」と同じように、次の□にあてはまる漢字を一字ずつ書き入れて、「肩」をふくむ慣用句を完成させなさい。

- ㊦ 肩で□を切る(意味Ⅱ いばって歩く)
- ㊧ 肩の□が下りる(意味Ⅱ 負担や責任から解放されてほっとする)

問二 線 b 「□目散」の□に漢数字を書き入れて、「わきめもぐらすに走るさま」という意味の三字熟語を完成させなさい。



問三 〰線 c「ようで」とありますが、例文と文法的な用法が同じものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

〔例文〕町の夜景が宝石のようだ。

- ア 柿や梨のような木が植えてある。
- イ 今夜は、この冬一番に寒いようだ。
- ウ あの手のようになりたい。
- エ この道は駅に続いているようだ。
- オ 手が氷のように冷たくなった。

問四  A・Bにあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア A＝ソワソワ B＝ギンギシ イ A＝ゴシゴシ B＝ギンギシ
- ウ A＝ゴシゴシ B＝カタカタ エ A＝ビクビク B＝カタカタ
- オ A＝ビクビク B＝パカパカ

問五 この文章には次の一文が抜けています。この一文が入るところを、本文中の「」ア～エから選びなさい。

それでも真央は笑顔を作った。

問六 〰線 1「どうしたら、大森さんは心を聞いてくれるんだろう」とありますが、真央はどんなことを思いつきましたか。

「ということ。」に続くように、本文中から二十六字で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ)

問七 〰線 2「校門を出てからスキップをした」とありますが、このときの真央の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 主張を押し通して、自分の思い通りになったことをゆかいに感じている。
- イ 先生に頼りにされ、この件で美奈子さんにほめてもらえると喜んでいる。
- ウ 今回の企画で、大森さんとの距離が少しでも縮まることを期待している。
- エ 学級委員として、クラスのために良い仕事ができたと満足している。
- オ 大森さんの件で、悩んでいる先生の力になったことを誇らしく思っている。

問八 〰線 3「なぜだか泣きたい気持ちになった」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 美奈子さんのことを素直にママと呼べない自分に、わけもなく悲しくなったから。
- イ 弟と写真を撮ることを美奈子さんにこぼされたと思い、なんとなくつらくなったから。
- ウ 美奈子さんと弟が楽しそうに過ごしている様子を見て、わけもなく腹が立ったから。
- エ 学校の話を持ち出せず、学級委員として頑張る自分がなんとなくむなしくなったから。
- オ 弟を可愛がれないことを美奈子さんに気づかれたと思い、わけもなく怖くなったから。

問九 〰線 4「初めて美奈子さんにウソをついた」とありますが、なぜですか。その理由を四十字以内で説明しなさい。

問十 本文の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 真央は美奈子さんとの仲を先生に相談しに行ったが、結局何も話すことができなかった。
- イ 真央が大森さんには内緒でおばあちゃんを呼びたいと提案すると、先生はすぐに賛成した。
- ウ 真央は美奈子さんに気に入られるために、我慢して美奈子さんの選んだ服を着ている。
- エ 真央は美奈子さんにはめてもらえると、自分にも居場所があるのだと安心することができる。
- オ 真央は自分の思いを何度も伝えるが、美奈子さんに受け止めてもらえずに苦しんでいる。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 最低チンギンが上がった。
- ② イチリン車にのる。
- ③ スイリ小説を読む。
- ④ 平和のためにブギを減らそう。
- ⑤ ぬれた衣服を外にホした。

問二 次の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 何事も独断で決めてはいけない。
- ② 背後から何かが近づいてくる。
- ③ 先祖の墓にお参りする。
- ④ そんな話は初耳だ。
- ⑤ 彼の顔は紅潮していた。

問三 次の語句が最も正しく使われている文をそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。

- |         |   |
|---------|---|
| ① 気が張る  | <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;">           ア みんなの前での発表はとても気が張る。<br/>           イ 注文した品物が来なくて気が張る。<br/>           ウ 先生にほめられたので気が張った。<br/>           エ 全力で走ったら気が張ってしまった。<br/>           オ 遠足が中止になり気が張った。         </div> |
| ② 目がない  | <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;">           ア 今のままでは彼女に合わせる目がない。<br/>           イ 今は経験不足でまだまだ目がない。<br/>           ウ 彼は甘い食べ物には目がない。<br/>           エ この問題を解くのにいい目がない。<br/>           オ 目がないと言われるほど我慢強い。         </div>  |
| ③ 腕を振るう | <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;">           ア 悲しい話に腕を振るわせた。<br/>           イ 母は料理の腕を振るった。<br/>           ウ 腕を振るって友人と別れた。<br/>           エ 反対意見に腕を振るった。<br/>           オ 美しい景色に腕を振るう。         </div>                    |

問四 次の部分に共通の部首を加えて一字の漢字を作ります。加える部首名をひらがなで答えなさい。

- ① 己 及 エ 田 会
- ② 女 元 寸 玉 谷



